

尊厳を守る行動

教会法の授業で愛を法にすることはできないという話を度々思い出します。教会法も法なので、罰則があります。罰が怖いので良いことをしたとしても、恐れに縛られているなら自由はなく、自由のない行為を愛と呼ぶことはできません。法は人間の尊厳を守るための手段であって目的ではありません。

神は愛であり恐怖ではない。神が地獄煉獄の罰や滅び、不幸などをちらつかせて愛を強制するなら自己矛盾に陥ります。人はその神に似せて造られました。自由と愛のない人の行為は命を失い、行いの結果もロボットが作業をしたものと同じとなり、人間はロボットと同じように正しい結果を出すことしか求められない存在となります。

コロナウイルス感染防止の為、政府や地方自治体の長から自粛要請がなされています。他国では強い強制力をもって自由を制限され外出すらままなりません。日本ではそのような強制力を伴わず要請としかできないのは憲法によって政府や自治体の長に人間の尊厳を守らせているからなのでしょう。諸外国に比べて人の尊厳を守らせる憲法の質が高いのではないかと思

クラレチアン宣教会司祭 梅崎隆一

ます。そして法もそれに則って施行されているので、人間がロボットののような手段としてではなく、尊厳ある目的そのものとして扱われます。

しかし自粛を大義名分とし、自粛警察なるものが営業しているお店を警察に密告したり、石を投げ、人の尊厳を奪う蛮行が人々に恐怖を植え付けています。暴力によって秩序を作り出しなくても恐怖が支配するならば、自由と愛は存在しなくなりません。

自粛要請はあっても人間の尊厳を守る対策は後手に回っています。「命を守る行動を」と言われますが、失業、退学、貧困、借金などへの経済的サポートや差別など尊厳と関わる「人の尊厳を守る行動」に力を注ぐべきです。

他者や自分を破滅へ追い込む衝動をフロイトは「タナトス」（ギリシャ語・死。虚無への騒動）と言いました。コロナウイルスから人を守ることでなく、人の尊厳を破滅に追い込む人間の心に潜む闇に打ち勝つことが求められます。タナトスに打ち勝つには愛しかないというフロイトは言います。人の尊厳を守るといふ愛を行うことで、死の恐怖を克服し何気ない日常を取り戻すことができますように。